

誰かの役に立ちたい  
わけじゃなく、  
知り合ったひとりひとりの  
笑顔が見たい。

その想いがつながってはじまつた活動の絆。

## KIZUNA Activity report



※南境生活センターに集った仲間たち NGO ヒューマンシールド神戸・四十萬塾・屈斜路ガイドステーションわつか・はからめ・八ヶ岳ビースワーカーズ・アースディ東京タワー・ボランティアセンター・アースディジャパン・にこにこ団・被災地をメディアでつなぐプロジェクト：笑顔 311・ASEED JAPAN・森の楽園・鶴岡元気村・徳恩寺・神奈川青年教師会・日本財團・Adventure Vacation Network・キャンプよろず相談所・つよし流自然農・移動サービスレラ・風組・IDRO Japan・DRT-JAPAN・フランツ・ビーブル 其他団体や個人のみなさま



あの日、東京から東北に向けて出発し、夜中の2時に石巻市に入り「住宅地に燃え移っている！」のラジオの声に導かれ気仙沼に早朝入った。しかし、火事場は瓦礫の中で手が出せない状態で地元の消防団と救助活動に参加。陸前高田でも活動しつつ、3日目に名取市で救援仲間と合流。四万十塾の木村とーる氏のカヌーを活用しての救助活動（犬を1匹救助）で亘理町へ入り消防レスキューと打ち合わせ現場へ入る。

余震での津波情報などで避難など繰り返しつつ、生存者を探して1週間目に石巻市へ部隊が移動。全国からの10台を越える仲間が被害状況を情報収集する中、拠点探しで南境へ。南境生活センターの使用許可を区長から取り、半年間の契約でお借りすることができて、全国からの支援物資や情報、仲間の基地となって動きはじめた。

並行して石巻ボラセンとの連携、連絡協議会の立ち上げ支援をしつつ、瓦礫や車両撤去の重機隊から人海戦術のマッドバスターズ、炊き出し隊、整体師隊、子供遊び隊、車いす輸送車両隊、物資配布隊なども動き続けた。

日本財團や各地からの仲間、NGOと連携する「石巻ボランティア支援ベース絆」を立ち上げ、震災から半年が経過した9月半ばに新事務所に移動。現在も活動を継続している。「震おさまれど、災おさまらず…」細く長くを目標に、支援の輪、絆を広げていただけるとありがたい。

共同代表 吉村誠司

吉村誠司 (NGO ヒューマンシールド神戸 代表)

阪神大震災から8年間神戸元気村副代表、イラク戦争反戦で現地入り後、NGO ヒューマンシールド神戸代表として国内外災害救援や平和活動を継続。立教大非常勤講師。長野県森林整備技術者、消防団員

## 「サンライス元氣村」プロジェクト

2011年11月スタート!!



震災から8ヶ月が過ぎた今、街も落ち着きを取り戻し始めました。被災された住民の方々の生活も避難所から仮設住宅へとほぼ移行し、支援の形も変わりつつあります。これから寒い季節を迎ますが、以前の震災でも問題となっていた「孤独死」を阻止したい！ 絆では、その生活支援のさきがけとして、ひとり住まいの高齢者の方々を対象とする“サンライス元氣村”プロジェクトを開始しました。馴染みのない新しい生活へと入っていった高齢者の方々へ毎月1度、袋詰めされた3kgのお米を届けます。お住まいを訪問してお米を直接届けることで、声を掛けあう機会を作り、生活の様子をうかがい知ることができます。そこから生まれた信頼関係を大切にして、ひとりひとりが抱える不安や問題をできる限り軽減し、“生きる活力”へと変えていくよう働きかけることを目標としています。

これは16年前の阪神淡路大震災のときにも、神戸の仮設住宅で2年間実践したプロジェクト。その経験から、数ある物資の中でも、お米は高齢者の方々にとって特別なものだと実感しました。米櫃の米が少なくなると、途端に心細くなるという方がたくさんいました。買い物する際には重く、運ぶのもたいへんです。また、修学旅行生の参加や全国の農協からの支援があったように、東北でも日本中の人々と被災地の高齢者の方々とを結ぶプロジェクトへと広げていきたいと考えています。「サンライス」というネーミングには、3kgの米という意味と、「希望の太陽が昇る」という両方の意味が込められています。11月8日に万石浦仮設住宅で第一回を行なったのを皮切りに、今後はより多くの仮設住宅で展開していきます。そのため現在、お米と支援カンパ金を募集しています。絆の活動の軸として、今後も長きにわたり継続していくプロジェクトとなりますので、みなさまのご協力とご支援をよろしくお願いします。

## カーシェアリング

阪神淡路大震災支援経験者の方からアドバイスをいただき、4月から車を集めの活動を開始。6月から現地調査を行ない、一般社団法人化を経て、7月24日に1台目の車両を万石浦公園仮設住宅に届け最初のテスト運行を開始しました。その後、県警や運輸支局等のチェックに対し、利用者の方々と共に変更を加え、次第にひとつの型ができあがっていきました。私たちのカーシェアリングは、個人や企業から提供いただいた車検付の車両に一般のみなさまから「くるま基金」として募集した15万円の寄付で1年間の保険を付けて、協会名義の車両を無料で提供します。ガソリン代など維持にかかる費用は利用される方々が負担、利用方法などは利用者間の話し合いで決めていただきます。ここからコミュニティが生まれ、利用を始めたふたりが最終的に自治会長と副自治会長になるという実例が生まれたこともありました。現在9カ所の仮設住宅で10台の車が動いています。最近では、自宅避難されている方々からも要望をいただき、渡波地区など4カ所でカーシェアリングがはじまりました。まだまだニーズを強く感じます。日々ローラー調査を行ないながら、引き続き活動に邁進致してまいります。



石巻の人々と  
共に作る  
カーシェアリング



吉澤武彦

震災直後から被災地に関わる動きをはじめ、カーシェアリングのプロジェクトに辿り着く。企業に足を運んで支援を頼んだり、仮設住宅を訪ねて調査したりと、地道な努力を積み重ねた。

一般社団法人 日本カーシェアリング協会代表

## 漁業支援・カヌーデイ



震災の影響で海には破壊された家屋と筏が散らし、船外機の付いた漁船が自由に航行できる状態ではありませんでした。そこで私たちが持っているカヌーを浮かべ、ロープ、浮きブイなどの漁具や材木をひとつひとつ手で回収しました。はじめは「カヌーなんかで…」と言われていましたが、綺麗になっていく浜を見て漁師さんも喜び、共に作業するようになりました。これから漁業を再生するために、全ての漁具を買い揃えるのは非常にたいへんです。漁具をひとつでも多く回収したい！ こうしてはじめたのが、"カヌーデイ in 石巻"です。日程を決め、全国から水の上での活動得意とするカヌースタジオたちが集まり活動しました。また、陸では石巻で活躍するボランティアと一緒にダンプやユニックを使った瓦礫の運び出し、カヌー以外にも多くの方々の力が集まってプロジェクトを遂行させてきました。牡鹿半島だけで7カ所の浜に関わってきましたが、今後も漁師さんが気持ちはよく漁に出て行ける環境を作るために活動を継続していきます。

カヌーデイ in 石巻に加え、牡蠣養殖や漁具への屋号書きの手伝い、漁業支援 web サイトの立ち上げなど、さまざまな面で漁業の再生を支援してきました。ワカメは年明け2月、牡蠣は2~3年

後に水揚げできる予定です。穴子漁も少しですが再開しています。

鈴木匠・鈴木よし子

はからめ主宰。2009年より福島県塙町で暮らす。3月19日に石巻に入り、主に焼き出しありやコミュニティカフェ、カヌーデイの活動に携わる。現地の状況に合わせて活動内容を変化させながら、現在も石巻、福島、関東を行き来する



長期的な目線で  
体制を作りたい

## 写真プロジェクト



石巻市旧市役所に自衛隊やボランティアによって届けられた大量の写真やアルバム、賞状などの遺失物を洗浄し、展示する作業を行なってきました。また、悲劇的な惨事を被った大川小学校生徒の遺留品が多く含まれる河北支所の遺失物の返却についても私たちが担当し、拾得された写真や遺失物の洗浄・整理・返却作業を行なってきました。時間の経過とともにバクテリアに浸食され洗浄すると消えてしまう写真が多くなる中で、写真をデジタルデータで保管するために7月から全ての写真の複写も開始しました。

現在、旧市役所と河北支所の2カ所での写真のデータ保存・洗浄作業はほぼ終了し、これまでの総作業者数は8,000人を超え、複写・洗浄をおこなった写真の枚数は60万枚以上に上りました。その中で、計5,500件の品物をお返しすることができました。

今後は複写したデータの切り出し等の画像処理作業及び、図書館システムのようなキーワード検索で写真を探すことのできるシステム構築を進める予定です。将来的には市役所や図書館等の所定場所で写真の検索・閲覧できるようにしたいと思っております。またiPadなどのタブレット端末でも写真を検索できるようにして、仮設住宅や集会所に持つて行き、ひとりでも多くの方に思い出の品々をお返しできるように、一緒に探すお手伝いをしたいと考えております。



上川幸夫

写真プロジェクト・旧市役所のリーダーとして、7月上旬から現在に至るまで活躍中。アースディ東京タワー・ボランティアセンター期待の若手

思い出の品を  
ひとりでも  
多くの方に届けたい

## 古民家再生 IBUKI プロジェクト



宮城県牡鹿半島の大原浜という集落にある、津波を受けた古民家や蔵。これを再生し、人々や情報の集まる場所とすることにより、大原浜全体、そして牡鹿半島全体の人・もの・情報の流れを作ることを目的としたプロジェクトです。

拠点となる大原浜では、地元の方たちが働く場所作り、地域のコミュニティ作り、そして地場産業による町おこしにつながります。それに付随した畑作りや、田舎暮らしを求める方々のIターンの受け入れなどにもつながっていくことをを目指しています。牡鹿半島に関わる他のNGO団体とも連携を模索しています。

また、愛媛県松山市で飲食店を営むチームが「IBUKIプロジェクト」と題して大原浜に移り住み、牡鹿半島の季節を感じさせる海の幸、山の幸を前面に出した飲食店の経営を地元の方々と協議しつつスタートさせる計画も進行中です。

## これから絆 活動予定

津波で瓦礫やゴミなどが入り込み、放置されている田畠を、人力でひとつひとつ拾ってきれいにし、来年の春に種植えをできるようにしていきます。

そこで育てた農産物を、飲食店や直売所などの自給市場で売り、地域経済の活性化につなげるというプロジェクトが新たに動き出しています。

3月11日からこれまでになってきた主な活動

## マッドバスターズ



3月11日からの1カ月。東日本大震災の起きた、津

波という潮流を受け、大きく変わり果てた東北沿岸の町並みを目にした僕たちは“見過ごす事ができなかった”ことを今でもはっきり覚えています。凍える寒さに和らげる衣服を、生存を、再会を、呆然とする身に柔らかな声かけから解きほぐす暖かさを…そう心の中で願いながら、潮流に浸られた家の中にある生きる支えを共に運び出しました。「マッドバスターズ」みんなで力を合わせて、いつも笑顔を忘れずに“ヘドロと瓦礫と向き合って”活動しました。

避難所や学校などの大型施設には、短期間で大人数を投入。5施設に延べ1,500人以上のボランティアと地元の方々で、建物の中まで入り込んだヘドロ出し、瓦礫撤去、清掃などを行ないました。一般住宅のヘドロ出しや家財道具出しは約2カ月で20件ほど。腐敗したイカ20トンを住宅から出したのは強烈な思い出です。



物だけではなく  
人の心を届けたい

### 木村とーる

阪神淡路大震災時、ボランティア団体神戸元気村の立ち上げに従事し、半年間救援活動。東日本大震災では3日後に現地入りし、現在も活動を継続。カヌー旅を通じ永続可能なライフスタイルを提案する「四十万塾」塾長

## 被災地をメディアでつなぐプロジェクト：笑顔311

被災状況を継続的に発信するメディアの育成を目的にプロジェクトを立ち上げました。

東京からは『+Starters』仙台からは『IFI AM』という震災ボランティア情報番組を配信し、同時に人材育成と技術提供も、し続けています。

私たちの活動がまさに被災地域をメディアでつなぎ、被災地以外で生活する人たちに対して継続的な支援を呼びかけるきっかけになればと思っています。

## まつりプロジェクト

「まつりで復活石巻」と題し、5月5日に石巻市大宮町明神社にてまつりを開催。その準備を通して、渡波地区的復興を応援しました。その後も各地域でまつりやイベントの応援、青空カフェ、炊き出しのデリバリー、誰でも使える洗濯機の設置など、さまざまな活動を通して地域や学校でのコミュニケーションと元気のお手伝いをしました。

## リラケゼーション

整体マッサージチームは、避難所を中心に3月末から3カ月だけでも6,000人を超える被災者のケアを行ないました。



## 炊き出し

石巻の各地で炊き出しを行ない、8月15日までに提供した総数は約111,165食になります。温かい食事をとることでほっと一息ついてもらいたい、野菜を摂って元気になってもらいたい…という想いで全国から集まったボランティアが避難所で暮らす方々と協力して調理。

長期で炊き出しを行なっていた湊中学校はご飯、メインのおかず、サラダなどを盛るワンプレートランチ約150食を132日間提供し続けました。4月頭からはじまった大街道小学校の炊き出しは、多いときでは約700食の汁物を提供。避難所の他、自宅で暮らす方々も毎日食べに来てくれました。瓦礫の多い石巻にゴミを増やしたくないという気持ちから、使い捨て皿ができるだけ使わないように工夫したり、生ゴミを減らすことでも考えミニズコンポストも行なったりしました。使った食材は、支援者が届けてくれた野菜や自衛隊の配給物資。地元の方々に喜んでいただけたのも、全国のみなさんの想いが集まり伝わったからだと思います。



復興に寄り添う  
コミュニティーを作りたい

大矢中子

情報発信ツールを駆使しながら、持ち前のマネジメント力で絆ベースの運営を支え続ける。「被災地をメディアでつなぐプロジェクト：笑顔311」代表

## 絆の歩み

- 3月11日 東日本大震災発生 初動メンバー、現地入りへ動く（福島、宮城、岩手へ 人命救助、緊急生活支援など）  
3月19日 活動拠点を石巻市南境生活センターへ 第1回連絡協議会（以後、物資配給・泥出し・炊き出し・整体などが中心に）  
3月21日 湊小学校での炊き出し（泥出し後、初めて）  
3月23日 "+Starters" 第一回放送  
3月26日 東京タワーから週末ボランティアバス運行開始（以後、毎週土曜日に10～90名の週末ボラが活動）  
3月27日 湊中学校で炊き出し（みなと食堂）スタート  
3月31日 大街道小学校（ブロードウェイ食堂）で炊き出しスタート  
4月上旬 まつりプロジェクトスタート  
4月上旬 第次にボランティアの人数も増え、瓦礫泥出しも大規模に  
4月下旬 渔業支援スタート（牡鹿半島にて日本財団と連携）  
5月5日 渡波・明神社のおまつり  
5月7日 写真プロジェクト・旧市役所スタート  
5月13日 みなと食堂にて図書館スタート  
5月14-15日 カヌーデイ in 石巻 狐崎浜・竹浜編  
6月3日 太陽光発電設置（明神社、表浜支所）以後続々と  
6月8-12日 カヌーデイ in 石巻 鳥海さま編  
6月13日 黄金浜会館でのコミュニティカフェ（Golden Beach）スタート  
6月14-16日 カヌーデイ in 石巻 浦浜（小渕浜）編  
6月18日 写真プロジェクト・福地スタート  
6月29日 湊中学校でミニズコンポスト開始  
7月12-14日 カヌーデイ in 石巻 大原浜編  
7月24日 カーシェアリング、万石浦公園仮設にて一台目テスト運行開始  
7月30日 新潟・福島緊急支援へ出発  
7月31日 灯籠流し  
8月1日 石巻川開きまつり  
8月6日 みなと食堂、最後の炊き出し  
8月17-18日 カヌーデイ in 石巻 鮎川・十八浜編  
8月20日 にこまるクッキープロジェクト開始  
8月20-22日 金華山での支援活動  
8月24日 古民家再生 IBUKI プロジェクト計画打ち合わせ開始  
8月25-27日 カヌーデイ in 石巻 萩浜編（日本財団 Gakuvoと連携）  
9月6日 台風1号被災地、和歌山緊急支援へ出発  
9月14-15日 南三陸町志津川の上山八幡宮でのお祭り  
9月15日 活動拠点引越し、みうら内科へ  
9月17-19日 ふくしま子ども元気村第一回  
10月3日 佐勇水産、営業再開（湊中学校近く、泥出し・掃除手伝い）  
10月28-30日 ふくしま子ども元気村第二回  
10月30日 串本町荒船海岸一斉清掃（和歌山）  
11月8日 サンライス元気村プロジェクト開始  
11月13日 こよみのよぶね（カヌーによる灯籠流し）  
12月2-4日 ふくしま子ども元気村第三回  
12月3-4日 カヌーデイ in 石巻 西出当（小渕浜）編

## コミュニティカフェ



炊き出し場所や地区の会館で、お茶やコーヒーを飲みながら話せる空間を作りました。会話することでニーズを掘り起こすきっかけとなったり、笑顔が生まれる機会が増えました。また直接石巻に来られない方が、カフェ用に心のこもったお茶菓子を送ってくれる「お菓子プロジェクト」もはじまり、被災地と各地をつなぐ架け橋に。今後は事務所の一角に地元の方が気軽に訪れるコミュニティスペースを作り、支援を続ける予定です。

## ソーラーパネル設置

太陽光パネルを設置して、被災地域の継続的な電源確保。暗い夜道を明るく照らす、新しいライフスタイルの象徴的な存在になりました。



## ボランティア支援ベース 紋

東日本大震災において被害が甚大だった石巻には多くのボランティアが駆け付けた。津波による被害を受けなかった石巻専修大学に災害ボランティアセンターが設置され一般ボランティアの受け入れが開始された。それと時を同じくして、阪神・淡路大震災以降、大災害が起きる毎に共に支援活動を行なってきたボランティア仲間によって石巻専修大学の最も近い位置に、「石巻ボランティア支援ベース紋」が設置された。

その拠点をフル活用し、重機・クレーン・動力機材などを使ってのヘドロやガレキ処理や生活道路の確保に始まり、避難所では一日数千食の炊き出しや心身共に疲弊した被災者に寄り添う活動を開始した。支援ベース紋に参集したボランティアは災害救援活動経験が豊富で、石巻で活動する他のボランティア団体の先導役として大きな影響を果たすことができた。

また、活動場所及び活動に使用する資機材や救援物資の情報など、被災地

紋は日本全国で活動しています

## 緊急支援活動

紋では、石巻にとどまらず、日本各地で起こる自然災害に対応し緊急支援活動を行なっています。

和歌山



台風 12 号による甚大な被害を受けた紀伊半島。紋では石巻ベースおよび全国各地のメンバーが被災直後から和歌山入りをし「熊野・ボランティア支援ベース紋」として災害支援活動を行ないました。中でも、床上浸水 1,452 件、床下浸水 1,044 件、死亡 23 名、行方不明 3 名という被害を出した那智勝浦町。被害直後の 9 月 6 日から特に被害の大きかった井関地区に現地ベースを設け、ボランティアセンターと連携しながら活動開始。石巻での紋の活動を耳にした串本町長が、町予算で紋の支援を決定しました。

ボラセンの立ち上げと運営への協力、協働団体の活動コーディネート、ボランティア空白地域への先乗り活動、地元住民と協働しての重機や電動工具ボランティアなど、多彩なのは紋ならでは。駆けつけた他団体の心強い協力も得ながら、地元小学校の大規模清掃への働きかけや、串本町と連携しての海岸清掃などの活動も行ない、今は長期的支援に向けての体制づくりを模索しているところです。

震災の影響は今も続いており、  
まだまだたくさんの支援が必要です。  
これからも、ひとりでも多くの想いを集め、  
大きな力に変えていきましょう。

### ◎現地でボランティア活動をしたい方

「ボランティア支援ベース紋」web サイト (<http://ishinomakizuna.net>) の「ボランティア参加方法」のフォームよりお申込みください。

「寝袋」と「想い」だけ持ってきていただければ大丈夫です。現地に来れば、できることは必ずあります。また、和歌山県那智勝浦での台風 12 号緊急支援にも、ボランティアを募集しています。

### ◎資金面での支援をしたい方

「ボランティア支援ベース紋」の運営には、事務所の家賃をはじめ、車を動かすための燃料費、通信費など、被災地域において効果的な活動を続けるために活動資金が必要です。

私たちのボランティア活動は皆様の支援金にて成り立っています。ぜひ、活動をサポートしてください。よろしくお願ひいたします。

ゆうちょ銀行

●郵便局からお振込みの場合

口座記号番号 02250-6-126044

口座名称 石巻ボランティア支援ベース紋

●他銀行からお振込みの場合

店名(店番) 229 預金種目 当座

口座番号 0126044

※通信欄に応援したいプロジェクト名とメッセージをお書きくださいね。

また、サンライス元気村、古民家再生、カーシェアリング、表浜漁業再生、和歌山プロジェクトごとに、それぞれに支援金を募集しています。

詳しくは web サイトをごらんください。

での支援活動がより効率的かつ円滑に行われるよう連絡会議（現在の石巻復興支援協議会）の設置を提案した。

紋を拠点とするボランティアはその後もフィールドを拡大し、被災地の状況に併せ、行政はもとより他団体にはないユニークで多彩な活動を展開し、石巻復興に大きな役割を果たすことができたと確信する。

最後になりましたが、この拠点のために集会所を提供していただいた南境の住民のみなさまに深い感謝を申し上げます。

日本財団東日本大震災支援センター 黒澤 司



阪神・淡路大震災以降、国内外で活動する災害救援ボランティアへの支援活動を行なながら、災害ボランティアのネットワークづくりに携わる。東日本大震災では、日本財団現地担当として発災当日から被災地に入り仲間と連携を図りながら支援活動を行う。  
技術系災害ボランティアネットワーク代表世話人  
みやぎ災害救援ボランティアセンター運営委員  
災害救援 NGO D.R.T-JAPAN 代表世話人

福島



7月末の新潟・福島豪雨水害により被害を受けた地域に、紋は先遣隊として石巻の資材などを届け、現場視察も行ないませんでした。移動しながら、各地の被害状況と復旧活動の立ち上がり状況を情報収集。手の届いていなさそうな奥会津の福島県金山町に行くことを決めました。現地は床上浸水 95 件、床下浸水 15 件の被害で、水害の泥は固まりやすいため、すばやく除去作業が必須。町役場や社会福祉協議会の方と連携しながら、ボランティアセンターの立ち上げ（8月 2 日）をサポート。地元コミュニティの濃密さにも助けられながら、現場での人や資材のやりくりをしたり、県外からのボランティア受け入れたりしました。1カ月近くの間活動し、個人宅の泥出し、側溝の掃除、泥に埋まった神社の復活など、さまざまな活動を行ないました。

## ふくしま子ども元気村

奥会津の金山町にて、福島県内の親子が集まって、放射能ストレスを緩和するための、子供たちの息ぬきツアーを行なっています。この企画は、金山町で行なった災害緊急支援で地元の方々と生まれたご縁をもとに、福島県内でも空間線量が低い奥会津で、子どもたちにのびのびと外遊びしてもらいたいという思いで立ち上げました。

金山町や奥会津は、福島県内でも有数の過疎高齢化が進んだ町ですが、逆に言えば、お年寄りたちが生涯現役で元気に暮らしている、昔ながらの山里の暮らしやたたずまいが色濃く残った町です。都市生活によって忘れてしまった、誇るべき福島の豊かで美しい自然や人の営みが、ここにはあります。

これまで 9、10 月の 2 回で、沼沢湖でのカヌー教室、森の中でのネイチャーゲーム、地元おじいちゃんおばあちゃんの昔語りやそば打ち講座、木造の旧小学校で宿泊し遊ぶなど、さまざまなプログラムを実施しました。今後も、参加する子どもたちや家族のみなさん、受け入れされる金山町のみなさんと一緒に考えながら、毎月 1 回、継続的に開催していく予定です。



### ◎連絡先

〒986-0821

宮城県石巻市住吉町 1-1-2

TEL) みうらクリニック内

電話 & FAX 0225-92-7820

メール info@ishinomakizuna.net

URL <http://www.ishinomakizuna.net>

ボランティア支援ベース紋

共同代表 吉村誠司

木村とーる

### ◎ボランティア支援ベース紋 参加団体 2011 年 10 月～

・NGO ヒューマンシールド神戸

・四万十塾

・屈斜路ガイドステーションわっか

・はからめ

・八ヶ岳ビースワーカーズ

・アースディ東京タワー・ボランティアセンター

・アースディジャパン

・被災地をメディアでつなぐプロジェクト：笑顔 311

・日本カーシェアリング協会

### ◎制作協力

株式会社ワッカ (wacca) <http://www.wacca.com>